

事業実施上のねらい

一般社団法人子ども未来塾

1 仲間づくりの推進

子どもたちの仲間づくりを積極的に推進し、次の事項を念頭に指導、運営する。

- ・飯盒炊飯等、食事づくりを協働で

班のメンバーとよく話し合い、互いに力を合わせて活動する。

思いやりや協力心、互いの人格の尊重等に重きを置き、指導支援を行う。

協力の大切さを学ぶ。

- ・進んで話し合い活動する

期間中、様々な関心事に遭遇する。内に秘めておかず、率直に疑問をぶつけ合い、活発に話し合いながら解決し、互いの存在を尊重し、理解を深める場を作っていく。

2 自然に親しむ

自然とのふれあいの中から、素朴な問題意識、発見を大切にしながら、豊かな心を育む。

- ・自己有用感を育む。

自然の中で、お互いを認め合うため、協働の作業は、大きな力となる。

協働は、お互いの存在を認めなければ成立しない。お互いがその人格存在を認め合い尊重が進むとき、自らもその存在の尊さ、有用感を意識する。

- ・地形や自然環境の形成について学ぶ

自らが存在する基盤、自然に興味を示し、その根源を知ることは、自らが生きる原点を知ることになる。どのように経緯をたどり、こうした自然が形成されたのか、そして、これによりどのような文化、個性が創出されたのか、興味は尽きない。先ず、どのようなことでもよい。素朴な疑問をぶつける機会をたくさん持ち、指導者や支援者を悩ませてほしい。明日への大きな夢につながるものと期待しています。

3 コミュニケーション能力を高める

国連の「子どもの権利条約」に、子どもの大切な権利として「意見表明権」がある。

しかし、少子化の影響か、「友達とお話の不得手の子」が増加傾向にある。

キャンプを通して、たくさん子どもたちと活発にお話をし、ふれあい、コミュニケーション力を身に付けてほしい。活発なコミュニケーションは、自らの存在を他者に認めて貰う大切な第一歩となります。

4 異年齢集団の集合は、世代を超えた知恵を生みます。

小学1年生から中学3年生まで、9年の年齢差の中でグループ形成をいたします。

体力の違い、知恵の開きもあるかと思えます。そうした集団の中で、相手を知る（力、知恵、経験等）生活が始まります。相手を理解するには相手に寄り添って考える「思いやりの心」が求められます。互いを認め合う、互いを信じあう、そうした何気ない所作を求める場が、キャンプには随所にあります。指導スタッフは、これをいかに支援するか、その経験が問われます。

5 安全教育の推進

子どもの行動は、常に冒険と挑戦に満ちており、それゆえにまた、魅力に溢れている。

それゆえに、子どもの安全能力の向上はこれら克服の延長線上にあると言え、安全能力の向上は、こうした日常の延長線上にあり、命の尊厳を体験的に学習する場となる。このため、子どもたちに主役意識を持たせることを旨とする意図はこうしたところにその意義を有する。ささやかな日常的危険の克服の積み重ねが、子どもたちの成長の軌跡と符合すると得心し、体験事業の推進を図っている。